

語源学の技法

——言語教育に生かす習得法——

岸 山 睦

1, はじめに

語源学とは語の起源を探求する学問で、同系語を挙げ、語形と語義の歴史的研究を行うことをその目的とする。英語の「語源学」“etymology (<ἐτυμολογία>)”とは語源的には「ことばの真の意味を研究する学問」である。語源学の研究が最も進んでいるのは印欧語の分野であり、その成果は各種辞書に見ることができる。しかし、近年ではその専門化が進み、印欧祖語からさらにノストラティック(語)という地点まで進んでいる。印欧祖語をアステリスク1つで表すと、ノストラティックはアステリスク2つで表す。¹⁾ その研究はあくまで推論の世界であり、言語学者の中でも評価が分かれる点である。推論を裏付けるような文献は存在しない。文献学を基にする本来の語源学からかけ離れてしまっているように思われる。

本稿では語源学を論じるのではなく、その実用的側面を考察したい。語源学には独自の技法があり、それを言語教育に生かす習得法があるのではないかと思われる。そこには学習者各自の〈発見の喜び〉がある。このような譬えが適当であるのかどうか分からないが、外国語を勉強しているうちに誰にでも語源についてのセレンディピティーがやってくる。つまり学習の過程で偶然の興味深い発見がある。この学問にはことばの誕生に出会う面白さがある。

本稿では、語源の面白さから始め、その定義、さらに「せたがやeカレッジ」で筆者が実践した「英語の語源学」や言語学関係の授業で使用したワークシートを紹介しながら、この学問の豊かさを論じたい。学生からよく単語が覚えられないとの声を聞くが、語源学の技法を体得すればことばへの愛が深まり、単語は自然に覚えらる。教育現場ではもっと単語の覚え方に時間を割くべきであろう。

2, 面白さというモチベーション

多くの人には〈語源的志向〉を持っている。これはきわめて普通に行われている実用的な思考法でもある。ことばの中には興味深い語源を持つものが多い。卑近な例では、八重洲口の「八重洲」とは「ヤン・ヨーステン」(Jan Joosten van Lodensteijn)に因んでいるとか、渋谷の商業施設109は「東急(とうきゅう)」にあてた語呂合わせであり、午前10時から午後9時までの営業時間であるとも言われている、など由来そのものが興味深いのである。英語の語源も同様である。昨年2010年に筆者は「雑学王」(テレビ朝日)に出演しgrammarの語源にまつわる話をした。テーマは、文法を意味するgrammarと女性の肉体美を意味するglamourは同一の語源であるという趣旨のクイズであった。意味の変遷をたどると、「ラテン文法」を解する人は「魔力」のような特別な能力を持っていると考えられ、それが「魅力」へと変化している。テレビでは少し単純化しすぎたが、スキート(Walter William Skeat)は、glamourはgrammarの転訛だとしている。gr-とgl-の綴りからは通常はこのような変

化は起きないが gl-の方が光り輝くイメージが強いためこのような転訛が生じたのかもしれない。

フランス語には「文法」と「魔法」の両義を持つ語が存在する。言わば、この中間的な語が残っている。それは、grimoire「①(ラテン語のようにむずかしくて)訳の分からない書物, ②魔法使いの本」という語であり、本来この語は14世紀にイギリスに渡り、様々な形を生んだ。glamer, glamor, glamour, glamerie などである。そして、スコットランドでは glamour という綴りを選択した。

語源はまず調べる作業から始まる。そして思索する。様々な語源説は発表する必要がある。ネットやテレビによる活動も重要な意味を持つ。メディアは今後も学びの場としても、さらに学問啓蒙の場としても大きな役割を果たすべきである。

語源は英語教育の中では、せいぜい語彙を増やすための雑談の程度でしかないのが現状ではなかろうか。しかし、どんな言語にせよ、語源教育は必要である。なぜならこれは語学のモチベーションたりうるからである。森鷗外は語源の勉強によってドイツ語学習を効率的なものとした。英語研究者の多くは、語源辞典を愛用している。

基本的な考えは学ぶ楽しさを心の中心に置き、技法としての語源学を楽しめばよいというのが本稿の趣旨である。言語学(文献学)が、ことばを愛する学問である“philology”であることを考えると本来の意味にそっている。〈語源学〉の実益は、まず、1) 語彙が増える。2) 歴史的な思考ができるようになる。3) 会話のテーマ(トリビア)が豊富となり英会話にも利用できる。そしてその中心的考えとなるべきものは、単語への愛情を持つことである。語学上達のためには、知的好奇心が満足させられることが重要なことである。

〈面白さ〉は一見学問的ではないが、言語研究には確かにこの〈面白さ〉が含まれている。科学的な語源研究や現在ではメディア関係の語源研究も必要である。パソコン関係では過去のことばに現代の意味を重ね合わせて〈なぞる〉ということをする。〈ログイン〉などはもうすっかり一般化しているが、「(ネットワークに接続して)記録開始」の意味である。もともと「航行日誌に記録する」ということであった。〈ログ〉とは「丸太」であり、〈ログ〉を海に浮かべて速度を測定したのがきっかけとも言われている。²⁾

3. 語源学の位置づけ

筆者は言語学関係の授業で自分なりの工夫をしている。以下のワークシートでは言語学全体をリンクと関連させながらクイズ形式で、説明する。何よりも分かりやすさを追求したのである。

Which field are the following questions in?

- (1) How can you pronounce 'apple'?
-phonetics
- (2) Is there any difference of /l/ sound between 'low' and 'apple'?
-phonemics
- (3) Is there any difference between 'No apple.' and 'No apples.'?
-morphology or syntax
- (4) What's the origin of the word 'apple'?
-etymology

- (5) What's the difference between 'There is an apple on the table.' and 'An apple is on the table.'?
-syntax
- (6) What expression is appropriate to offer 'apple'?
-sociolinguistics
- (7) What's the difference between 'ringo' in Japanese and 'apple' in English?
-contrastive linguistics
- (8) Are Western apples green?
-semantics
- (9) What do you say 'apple' in German and Russian?
-comparative linguistics
- (10) What does this smiley mean?
-semiotics

(1) では /æ/ 音の説明を行い英語を正しく発音するためには舌の位置が大切であることを強調する。(2) では同じ /l/ 音でも語頭と語末では音が違うことを説明する。(3) では単語レベルと文法レベルの両方が考えられる場合を理解させる。(4) では語源学を説明する。(5) では統語論を説明する。両者の違いはネイティブでも微妙であることを説明する。(6) では社会言語学を説明する。(7) では対照言語学について比較言語学との違いを説明する。(8) では意味論を説明する。(9) では比較言語学を説明する。(10) では記号論を説明するが、これは携帯電話やパソコンが使われるようになってかなり複雑な様相を呈してきたことを説明する。

4. 外国語学習への利用——ラテン語の力

ラテン語は随分日本に入り込んでいる。言うまでもなく「ドレミファソラシド (Do Re Mi Fa So Ra Ti Do)」はラテン語起源である。英語圏では CDEFGABC と「ドレミファソラシド」を併用しているものの、基本は CDEFGABC である。もっともドイツでは CDEFGAHC としている。

その他、日本語化しているのは、オクターブで、oct- は「8」を意味している。オクトパス (octopus) は「蛸」、もちろん足が8本あることに由来する。英語では a. m. (ante meridiem), p. m. (post meridiem), p. s. (post scriptum), e. g. (exempli gratia), cf. (confer) などラテン語からの借入語は枚挙にいとまがない。無意識にラテン語を使っていることも多い。現代のイギリス人、アメリカ人にとってのラテン語は日本人にとっての漢語のようなものであり、ある種の標語や権威づけにも用いられている。

ラテン語を英語との関係で押さえるならば、その「造語力」から、ラテン語はかなり実益が得られる。たとえば、“sub” (ラテン語で「下」という意味) を例にとりたい。

- (1) subway 「地下鉄」
- (2) subconscious 「意識下」
- (3) subtitle 「字幕, サブタイトル」
- (4) suffer 「苦しむ」
- (5) suppress 「抑圧する」

(4) と (5) では “sub” の “b” が消えている。この理由として考えられるのは後続する /f/ 音と

/p/ 音に吸収されたためである。“assimilation”「同化，音の消失」という現象である。

ラテン語はこのように前置詞を覚えるだけでも語彙が増える。もう一つだけ例を出すと，ラテン語に *amare* 「愛する」という動詞がある。これはフランス語やイタリア語にもあるが，英語の関連語として次のものが挙げられる。

(6) *amorous* 「恋についての」

(7) *amateur* 「アマチュア」

(8) *enamor* 「魅惑する，魅了する」 cf. *be enamored of* 「魅了される」

ラテン語は，言語学的にもロマンス語の中でかなり重要な言語で，紀元前1世紀カエサル，キケロ，ヴェルギリウスの黄金時代に優れた文学を生み出したことでも有名である。その後ラテン語は，ローマ帝国の拡大に伴い，イタリア半島，イベリア半島，ガリアの共通語となり，476年に，西ローマ帝国の滅亡とともにロマンス諸語，すなわちイタリア語，スペイン語，フランス語へと分派してそれぞれが発達していった。ルーマニア語もロマンス語の一つである。ラテン語は，現代のヨーロッパの精神形成においても大きな意味を持っていた。たとえば，*Cogito, ergo sum.* とは，デカルトの有名な「我思うゆえに我あり」ということばで，彼の根本哲学を表している。

ラテン語が学問にいかにか大きく寄与したかは，生物につけられた「学名」によっても明らかである。たとえば，パンダの学名は *Ailuropoda melanoleuca* で「猫の足をした，黒と白」という意味である。これなどもヨーロッパだけではなく，世界に共通の命名を提供しているわけである。ローマ数字も重要な役割を果たしている。数字は I, II, III, IV (IIII), V, VI, VII, VIII, IX, X と進むが，IV については時計の数字では通常 IIII を使う。理由はいくつかの説があるが“IVPITER (ジュピター)”の頭部分の IV と重なることはならぬというところからきている，という話を実際に聞いたことがある。³⁾ “euphemism” 「婉曲語法」と同様の真理が働いているものと思われる。“God” を “Gosh” というのと同じ心理である。語源学は心理ともかかわっている。



ロンドン市内の時計
(撮影は筆者による)

5. 語源チャートへの発展——語彙を増やす（類推力を養う）

いかなる言語においても，単語を覚えるときには，語源的アプローチが有効である。たとえば，*impress* という単語を例にとると，*im* と *press* で「中に押す」ということで，「印象を持つ」という意味になる。*Express* は *ex* 「外に」 *press* 「押す」で「表現する」となる。さらに，*depress* は「下に押す」で「落ち込む」となる。また，*express* に特急という意味があるが，スピードを〈圧縮〉するので，*express* となり，空気を〈圧縮〉して入れる「エスプレッソ・コーヒー」はイタリア語で *espresso* と綴る。下に押さえれば，*suppress* という単語ができあがり「発売禁止にする」「検閲する」

という意味になる。以下のようなチャートは辞書に載せるとよい。レイアウトを工夫すると記憶に残りやすい。

<u>-press の語源チャート</u>	
impress	<im「中に」 + press「押す」→「印象を持つ」
express	<ex「外に」 + press「押す」→ ①「表現する」②<スピードを圧縮 → 特急
depress	<de「下に」 + press「押す」→「落ち込む」
espresso	「エスプレッソ・コーヒー」→「空気を圧縮して入れるコーヒー」
cf. oppress	<ob「上から」 + 「押す」→「制圧する」

このチャートは一例にすぎない。ここから出発して多くのチャートを作ることが可能である。実際に多くの語源関係の参考書ではこの形式が多いが、辞書ではあまり見られない。

同根語という観点から語彙を第二外国語に引き延ばすことが可能である。地理学や歴史学という立体的な認識からトリビアを楽しむことが必要である。たとえば英語に card ということばがあるが、医学用語としてドイツ語が日本語に入り、医師が使うカルテ Karte になったり、フランス語では a la carte 「アラカルト」という場合の carte になったり、ポルトガル語起源の「歌留多」にもなる。同じことばの意味の違いを地理と歴史の両方から把握することができる。ちなみにセルビア語では carta は「切符」の意味となる。

英語の関連語として chart 「海図、図表」や cartoon 「漫画」ということばも派生させている。意外な結びつきが面白さにつながる。語源学はことばの「歴史学」のようなものである。イメージのつながりをたどるのは特に興味深く、たえず、自分なりの発見が期待される。

西洋語のつながりはキリスト教が媒介する部分が多い。英語のジョン (John, Jack) はドイツ語のヨハネス (Johannes), あるいはハンス (Hans), フランス語のジャン (Jean), スペイン語のホアン (Juan), ロシア語のイワン (Иван) にあたる。「ヤンキー」の語源とも言われているオランダ人の Jan という人名も実は、「ヨハネ」からきている。これは、キリスト教文化圏には広く深く浸透している名前である。

6. 会話を楽しむ——語源が英会話のテーマになりうる例

このように英語の語源に興味を持つことは、ことばを立体的に知ると同時に、ヨーロッパへの知識も深まり、極めて大きな意味がある。ことばはコミュニケーションの道具という位置づけは必ずしも正しくない。むしろ、ことばは一つひとつそのうらにストーリーを持っている。そこをたどることによって、「本来の意味」を知り、ことばへの認識を深めて行くことが大切であろうかと思われる。

「せたがや e カレッジ」のテキストから引用し、パトリック・フルマー先生との会話例をここに紹介したい。テーマは名前の由来である。(M は筆者、P はフルマー先生)

M: Good morning, Mr. Fulmer.

「おはようございます、フルマー先生」

P: Oh, good morning, Mutsumi-san. Thank you for inviting me.

「おはようございます, 睦さん。お招きいただきましてありがとうございます」

M: My pleasure. Please take a seat.

「こちらこそ。おかけ下さい」

P: Sure! Thank you.

「ありがとう」

M: Now viewers, Mr. Fulmer is known as a popular teacher at Showa Women's University.

「みなさん, フルマー先生は, 昭和女子大学で人気の先生です」

Thank you very much for coming here. I'd like to ask you a number of questions about the origin of names.

「おいでくださいましてありがとうございます。名前の語源についてたくさん質問したいと思います」

P: OK. Sounds good.

「結構ですよ」

M: Where are you originally from?

「ご出身はどちらですか」

P: Actually, I was born in Washington, D.C. and my ancestors are some of the original people that came to Boston and some of the colonies.

「実は, 私はワシントン DC 生まれでして, 先祖はボストンなどの最初の植民地に移住してきました」

M: Oh, I see.

「そうですか」

M: What does your name mean?

「お名前はどのような意味ですか?」

P: My first name is Patrick. Well, Patrick is actually the Irish Patron Saint and...umm, it also means a good honest person.

「名前はパトリックです。それはアイルランドの聖人で, 善人で正直者という意味もあります」

M: Oh, ...good....

「それはいいですね」

M: I've heard that many Americans are interested in their origins. I think that is one basic difference between Japanese and Americans.

「アメリカ人の多くは, 先祖の起源に興味を持っていると聞きます。それは日米の差ですね」

P: Yeah, I think so. As a matter of fact, I brought along part of my family ancestry...part of my genealogy. Ruriko, please.

「ええ。そう思います。実は今日は私の先祖の一部, 家系図を持ってきています。るり子さん (持つのを) 手伝ってください」

This is a small...a very small part of... actually my mother's sister was very interested in our genealogy and this piece of paper shows only a very small part of our mother's mother's grandmother that traces back to the 1900s...back to four brothers that emigrated from Scotland in 1753.

And so this is only a very small part...and as I mentioned, she...there are about 300 papers like this. And she has our family traced back to about 800 A.D. So it's pretty interesting. And I think this style is different than you do in Japanese ancestry.

「これは一部で, 実は母の姉妹が私たちの家系図に興味を持っていて, 1900年代まで, つまり母の母の祖母までさかのぼれ, 1753年にスコットランドから移住したところまで行けます。そして, これはほん

の一部で、このような紙が300枚もあります。彼女はAD 800年ころまで、さかのぼれます。とても興味深いものです。これは日本の家系図とは違います」

M: Is this a usual type of genealogy in the United States?

「これはアメリカで普通ですか？」

P: Uh yeah. One of the things people try to do is make it 3-dimensional so that...you...it...it looks like a tree or part of a tree instead of flat paper. So it looks complex, but when you actually understand the method or technique, it's very easy to find out where it goes. And it's just a very small part of that.

「はい。アメリカ人はよく3次元的なものを作ろうとします。平らな紙よりも立体的なものです。複雑そうに見えますが、その方法や技術が分かれば、どのように枝葉が分かれるか、分かります。まあ、とても小さな部分ですが…」

M: That was really interesting!

「面白いですね」

P: Sure.

「そうです」

M: Thank you very much for showing that to us.

「お見せいただきありがとうございます」

P: Sure, thank you.

「どうも」

M: Well, let's get back to our theme. I know an African American whose name is Mr. Dowdy. His name means "not neat or stylish in dress or appearance." His name reminds me of slavery period in U.S. history. I don't know his feelings about being given such a name. Is it true that white people named their slaves jokingly?

「テーマにもどりましょう。私はダウディーさんというアフリカ系アメリカ人を知っています。彼の名前は「きちんとしていない、あるいは身なりがよくない」という意味です。それは、奴隷制時代を思い出します。そういう名前をもらってどういう気持ちなのでしょう。白人が奴隷たちに冗談で名前をつけるということがあったのですか？」

P: Umm...mm.... Yeah, actually it's a very unfortunate part of American past. And ah... typically, most white people had no understanding of African origins or African names so they very often gave either derogatory or demeaning names. On the other hand, they chose simple names...often chose names of presidents of the United States to name their slaves so it was easy for white people to understand who they were.

「ええ。実はアメリカの過去のとても不幸な部分です。多くの白人はアフリカ人の起源やアフリカ人に理解を持っていなかったので、しばしば軽蔑的で品位のない名前を与えたのです。あるいは、単純な名前を選び、しばしば奴隷たちに時の大統領の名前を選んだりしました。そうすれば、彼らが誰か分かりやすいのです」

M: Oh, for example, Roosevelt...?

「例えば、ルーズベルトとか…」

P: Yeah, so Rosy Dowdy's first name is Roosevelt from the two presidents.

「ええ。まあダウディー先生の名前は二人のルーズベルト大統領からです」

M: Yeah, Roosevelt.

「そう、彼もルーズベルトでした」

P: Yeah, so there are obviously still some angry, bitter feelings about that so it's actually pretty unfortunate.

「ええ。(白人が冗談でつけたことについては)明らかに少し苦々しい感情があります。不幸なことです」

M: By the way, there are a lot of westerners whose name come from their nicknames. How about the names derived from vocations such as Smith, Tailor, Chamberlain...and so on?

「ところで、西洋にはニックネームからきた名前もありますね。スミス(鍛冶屋), テイラー(仕立て屋), チェンバレン(執事)など職業からきたものもありますね」

P: Yeah, that was a very very common practice because people weren't so interested in the names but were interested in who was doing what vocation. So if there was a blacksmith, it was easier to simply say, "Smith...or bring me the Smith" or "Smith, come here." So the names began to be used as family names.

「人は名前に興味があるというよりは、何をしている人かに興味があるので、名前を職業でつけるというのはとてもよくある慣習です。鍛冶屋さんがいたとして、鍛冶屋さんを連れてきてください、とか鍛冶屋さんこっちへ来てください、と言う方が名前と言うより簡単です。それでその名前は、苗字として使われ始めました」

M: That was interesting.

「興味深いですね」

M: How about the surnames from place names? We can know McDonald and McArthur are from Scotland or Ireland.

「場所の名前からの苗字はいかがですか? マクドナルドやマッカーサーはスコットランドやアイルランド系だとわかりますよね」

P: Yeah, ...umm...I'm not...I'm not so sure they're actually place names but they're certainly what're called "clan names." ...because you had the first names and then the translation of a certain clan like McDonald or McClean. And that was very very prominent throughout, for example, Scottish and Irish history and is still prominent today.

「ええ、じつは場所の名前はあまり詳しくないのですが、でも確かにそれは(もとは)いわゆる「氏族の名」であります。なぜなら、まず名前があり、次にマクドナルドやマクリーンなどのようなある種の場所が分かる苗字が来るからです。そして確かにそれは、スコットランドやアイルランドの歴史を通してまた今日でも目立っています」

M: My last question is why do you give a name even to a hurricane? The hurricane in Florida is called 'Charlie.'

「最後の質問はなぜハリケーンのようなものにさえ名前を与えるのかということです。フロリダのハリケーンはチャーリーでしたよね」

P: Yeah, one of them is Charlie and then recently a really devastating one that hit the Gulf Coast is called Ivan.

「はい、その一つはチャーリーです。最近のアメリカ南部を襲ったひどいものはイワンと呼ばれます」

M: I'm very sorry to hear that.

「ハリケーンのニュースを聞いて気の毒に思います」

P: And there is a new storm that hit the island of Haiti and killed over 600 people.

「ニュースによればハイチを襲ったものは600人以上の死者を出したそうです」

M: Oh, I see.

「ああ、そうですか」

P: And so the naming in the old days used to be women's names only, and it started from the first hurricane of the season and it went from A B C....

「かつての名前は女性の名前ばかりでした。最初のハリケーンは女性名でしたが後はアルファベット順で進みます」

M: Oh, I see...alphabetical order.

「ああ、そうですか。アルファベット順ですか」

P: And then...ah...a lot of women...because of the gender issues in the U.S.... and the ways in which we're trying to equalize or gender norm the situation, they changed the naming from one gender to the other gender. So for example, Francis...and Francis is a woman's name and...

「たくさんの女性名が出てきます。アメリカではジェンダー（女性解放運動）の問題がありまして、性の平等にも配慮しています。それで名前も変えてゆきます。例えば、フランスは女性名ですね」

M: Yeah, a woman's name.

「そう。女性名です」

P: ...Charlie is a man's name...C...So Charlie is actually a man's name. So the next hurricane is a D...was a woman's name. And then...it gets up to... (let's see) after Ivan now is Jean and so Ivan is a man's name and Jean is a woman's name. So actually I always wondered about that...typhoons in Japan. ...because we, ...Western people like to personalize that kind of natural disaster rather than use a number.

「チャーリーは男性。Cですから、で、男性。それで次のハリケーンはDで女性。イワンは男性。イワンの後はジーンで、ジーンは女性ですね。だから、日本の台風は、なぜいつもそういう付け方をしないのでしょうか。私たち、欧米人は自然災害を数で付けるというよりは、人間のように扱います」

M: Oh yeah, we just call it 17 or 18.

「そう日本は17号、18号と言います」

P: I'm always curious about why Japanese simply use numbers instead of names...ummm....

「私はいつも日本では、名前よりも何号という言い方をすることに興味を持っています」

M: Very interesting story. Thank you very much, Mr. Fulmer.

「面白いお話ありがとうございます。フルマー先生、ありがとうございました」

P: Been my pleasure.

「こちらこそ」

M: We appreciated it.

「感謝します」

P: Thank you very much.

「どうもありがとうございました」⁴⁾

現代の英語教育において自然な談話の重要性はもっと強調されていい。会話では言い淀みや、繰り返し、言い間違いはよくおこり、それもまた自然な談話である。ここではアメリカ人の名前の由来、ハリケーンの名前の付け方、などについて肩のこらないテーマで、文化的にも歴史的にも意味のある内容を盛り込んだ。

7, 語源学の展望

語源学は言語学の基礎となった重要な学問である。本稿では、まず語源学の言語学における位置づけから始まり、語源学を〈偶然に発見することばのエピソード〉と考えて、会話のトピックへの応用へと論を展開した。ここでは語源学の公式を扱うことよりむしろ、広く会話を楽しむ立場から語源学を論じた。語源学とは、ことばの捉え方であり、歴史や社会の関連の中で志向する学問であることを再確認した。

現代語の誕生に目を移すと、コンピュータ関連のことばが数多く作られている。現在普通に使っている「アイコン」(Icon), 「CC」(Carbon Copy)などはかつての意味とは異なる。その意味では新語である。「メール」とは「Eメール」のことであり、これも意味を限定している意味では新語である。これほどまで多くのことばが作られる現場に居合わせることができるのは、歴史上稀なことである。Facebook や mixi など固有名詞であるが、その中で使われる様々なことばはすでに一般語となっている。大量のメディア関係のことばを前にして、今後はネット上の語源辞典の充実が望まれる。

注

- 1) たとえば、ノストラティックの母音は **a, **ä, **e, **i, **o, **u, **ü と表示される (“Nostratic” Ann. Rev. Anthropol. 1988. 17: 309-29)。
- 2) Online Etymology Dictionary の “log” 参照。
“to enter into a log book,” 1823, from *logbook* “daily record of a ship’s speed, progress, etc.” (1670s), which is so called because wooden floats were used to measure a ship’s speed. To *log in* in the computing sense is attested from 1963.
(<http://www.etymonline.com/index.php>)
- 3) 単に話を聞いた、では一般には不確かであるように思われるかもしれないが、ここでは語源説をフィールドワークのように考えたい。語源説はなるべく多い方がよい。たとえこの説が間違っているとしても、一説としての価値がある。
- 4) 「せたがや e カレッジ」のテキストから加筆・修正して引用させていただいた。「せたがや e カレッジ」の幹事会資料によれば、会員数 5,196 名のうち、「英語の語源学」の受講者数は 357 名 (平成 23 年 6 月 23 日調べ) である。

参考文献

- Liberman, Anatoly. 2005. *Word Origins*. Oxford: Oxford University Press.
- Malmkjær, Kirsten. (ed.) 1991. *The Linguistics Encyclopedia*. London: Routledge.
- Skeat, Walter W. 1879. *A Concise Etymological Dictionary of the English Language*. Oxford: Clarendon Press.

(きしやま むつみ 文化創造学科)